

上位計画の主な内容（仙名城跡関連部分の抜粋）

（斜字体は仙名城跡関連部分）

<p>仙台市総合計画 2020 （平成 23 年 3 月） 基本構想</p>	<p>私たちは、仙台が培ってきた都市の個性を、市民と行政の協働によって発展させた姿として、「誰もが心豊かに暮らし続けることができる都市、『ひとが輝く杜の都・仙台』をめざします。この理念のもとに、都市個性に対応した 4 つの都市像を掲げ、市民と行政とが共に実現に取り組み、次の世代へと希望をつないでいきます。</p> <p>○未来を育み創造する学びの都</p> <p>- 未来につなぐ多様な価値や個性を創り続ける輝く学都 -</p> <p>◇学びの場にあふれ、生涯にわたり楽しく学ぶことで市民力が広がり、一人ひとりの心の豊かさにつながるまち</p> <p>◇世界中から人材や情報が集まり、知的資源の集積と交流から新たな価値を生み出すまち</p> <p>◇未来を担う子どもや若者が学びを通じて心豊かに成長し、社会にはばたく力を伸ばすまち</p> <p>◇城下町の歴史的資産や伝統のもとに、創造的な文化風土を育み、世界性を持つ都市の個性が息づくまち</p> <p>○支え合う健やかな共生の都</p> <p>○自然と調和し持続可能な潤いの都</p> <p>◇多様な生態系や潤いと恵みに満ちた豊かな自然に包まれ、緑と水のネットワークや杜の都の文化風土を継承する個性的な都市景観がやすらぎを醸し出す美しいまち</p> <p>○東北を支え広く交流する活力の都</p>
<p>基本計画</p>	<p>[重点的な取り組み]</p> <p>都市像の実現を牽引する 4 つの重点政策</p> <p>1 学びを多彩な活力につなげる都市づくり</p> <p>施策の方向性 (1) 学びを楽しむミュージアム都市の推進</p> <p>仙台の多彩な資源や施設、イベント、人材などが有機的につながり、まち全体が一つのミュージアムとなって、市民や訪れた人が学びを楽しみ豊かな時間を過ごすことができる「ミュージアム都市」づくりを市民協働で推進し、多様な活力を創造します。</p> <p>○仙台に培われてきた自然や歴史資産、生活文化、景観などの素材を、市民自らが発掘し、知る楽しみや感動をもたらすミュージアム資源として発展させ、生涯学習や観光交流、産業や地域の活性化などに生かします。</p> <p>[分野別計画]</p> <p>学びや楽しみを多様な創造につなげる都市づくり</p> <p>（施策）学びの資源を生かしたまちづくり</p> <p>◆仙台の個性であるまちの資源を生かし、学びの環境づくりを進め、市民や訪れた人が学びを楽しみ豊かな時間を過ごすことができる、まち全</p>

体が一つのミュージアムとなる「ミュージアム都市」を構築していきます。

◆これまで培われてきた知的資源を維持・発展させ、学びを新しい学都づくりに生かしていきます。

◆学生を中心とする若者の力を培い、若者の主体性や行動力を生かしたまちづくりをすすめます。

[基本的施策]

①歴史文化を生かしたミュージアム資源の創出と情報の発信

■歴史的資源や都市景観、里山や田園、海浜、河川などの自然、居久根や名木・古木などの緑、生活文化など、多様な地域資源を市民が発掘し、学びの資源に発展させる活動を支援します。優れた資源はミュージアム資源としての認定を進め、活用に向けて広く情報を発信していきます。

■**仙台城跡について、市民や観光客が親しみ学ぶことができるよう、歴史的・文化的空間としての整備を進めます。**

②多様な学びの拠点の充実

③学びを楽しむことのできる環境整備

■(仮称)国際センター駅周辺地区において、仙台城跡や博物館、青葉山公園、西公園などの多様な歴史的・文化的資源や自然環境との連携を図りながら、ミュージアム機能、コンベンション機能、観光交流機能を強化し、新たな魅力を創造し発信するシンボルゾーンの形成を進めます。

■城下町としての歴史や文化、杜の都の自然など、多様な観光資源と連携を図りながら、学びをテーマとするツーリズムを促進します。

■歴史的・文化的資源の保全や発信、まつりやイベントなどの地域資源の運営や発信に取り組むNPOやボランティア団体、地域団体などの連携を促進し、学びの資源の魅力向上や新たな学びの機会の創出を図ります。

④大学等と連携したまちづくり

自然と調和し持続可能な環境都市づくり

(2) 自然と共生する都市づくり

[身近で魅力的な公園の整備]

■**藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しみることができる青葉山公園の整備を進めます。**

■広瀬川を取り囲む青葉山公園、西公園、大年寺山公園などについて、歴史・文化をつなぐ緑の拠点として一体的なエリア形成を図ります。

[青葉区の施策の基本方向 - 都市機能等の充実・強化]

■青葉山地区においては、杜の都のシンボルとなる青葉山公園の整備等を進めるとともに、大学等の知的資源を生かし、国際的な学術文化交流機能を充実していきます。

<p>教育の振興に関する施策の大綱（平成 27 年 12 月）</p>	<p>基本方針（4）市民の継続的な学びの創出と市民力の育成</p> <p>仙台には、様々な教育施設をはじめ、豊かな自然や歴史など多くの学びの場や資源があります。これらをフルに活用しながら社会教育の充実、活性化を図るため、市民一人ひとりのライフステージに応じた学びとネットワークづくりを支援し、すべての市民が生涯を通じて社会を生き抜く力を身に付ける学びを支えていきます。また、学びを通じた市民同士のつながり、団体間のつながりを支えるとともに、学びの成果を社会の中で発揮できるような仕組みづくりに取り組みます。</p>
<p>第 2 期仙台市教育振興基本計画《2017 - 2021》（平成 29 年 3 月）</p>	<p>仙台カラー6 伊達な歴史・伝統文化による魅力発信プロジェクト</p> <p>仙台藩祖伊達政宗公によって生まれた独自の伝統文化やその歴史の効果的な発信・活用を進め、地域の活性化を図ります。</p> <p>○「政宗が育んだ“伊達”な文化」の魅力を発信します。</p> <p>日本遺産に認定された「政宗が育んだ“伊達”な文化」を効果的に活用した事業を展開し、その魅力を発信します。</p> <p>○市民や観光客が親しみ楽しめる仙台城跡の活用を進めます。</p> <p>仙台城跡の調査・活用を進め、市民や子どもたちが仙台の歴史に親しみ学び、観光客がより一層楽しめる機会を創出します。</p> <p>生涯学習に関する基本的方向</p> <p>充実した多様な学びの機会を提供するとともに、市民の主体的な学びを支えていくための継続的な支援を行い、誰もが仙台に住みたい、住み続けたいと思える学びの機会に溢れた魅力あるまちを目指していきます。</p> <p>ミッション 4：豊かな資源を活用した学びの提供・魅力の発信</p> <p>豊かな自然や伝統ある歴史、多くのミュージアムなど、多様な学びの資源を活用し発信することで、誰もが仙台に住みたい、住み続けたいと思える学びの機会にあふれた魅力あるまちを目指します。</p> <p>[今後の方向性・取組み]</p> <p>○今日の仙台に至る歴史の調査・研究を進め、史跡や文化財、資料等の保存・活用を図るとともに、郷土の歴史と文化を学ぶ機会の充実を図ります。</p> <p>○仙台城跡については、調査・活用を進め、市民や子どもたちが仙台の歴史に親しみ学び、観光客がより一層楽しめる機会を創出します。</p> <p>○史跡陸奥国分寺跡や陸奥国分尼寺跡、郡山遺跡などの貴重な文化財の保全を進めるとともに、歴史や文化に親しめる場としての活用を図ります。</p> <p>○地域の文化財や歴史への関心に即応した普及啓発を図ると同時に、「日本遺産」に認定された「政宗が育んだ“伊達”な文化」を効果的に活用した事業を展開します。</p>

関連計画の主な内容（仙台城跡関連部分の抜粋）

（斜字体は仙台城跡関連部分）

<p>杜の都環境プラン 仙 台市環境基本計画 2011 - 2020 [改訂版] (平成 28 年 3 月)</p>	<p>仙台市の環境の保全と創造に関わる政策・施策の基本的な方向を定めるもの。</p> <p>[環境都市像] 「杜」と生き、「人」が活きる都・仙台</p> <p>[計画の理念]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 恵み豊かな環境の保全と創造及び将来の世代への継承 2 自然生態系の均衡を尊重した自然との健全な共生 3 環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な都市の構築 4 あらゆる事業活動や日常生活における地球環境保全の推進 <p>[分野別の環境都市像]</p> <p>「低炭素都市」仙台 「資源循環都市」仙台 「自然共生都市」仙台</p> <p>「快適環境都市」仙台</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康で安全・安心な生活を支える良好な環境を保つ ○景観・歴史・文化等に優れた多様な地域づくりを進める <ul style="list-style-type: none"> ア 美しい景観を保全・形成する イ 歴史的・文化的景観を保全する ウ 快適で潤いのある空間を保全・創造する <p>エ 環境の美化を進める</p>
<p>仙台市「杜の都」景観 計画（平成 21 年 3 月策 定）</p>	<p>景観形成の基本方針</p> <p>[基本テーマ]「杜の都の風土を育む風格ある景観づくり」</p> <p>[基本方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■緑に囲まれた美しい「都市の眺望風景の保全」 ■集約型都市構造に適うメリハリのある「良好な市街地景観の形成」 ■暮らしやすさが実感できる「心地良い生活環境の育成」 ■個性と伝統を受け継ぐ「風情ある街並み景観の醸成」 ■仙台の顔にふさわしい「風格ある中心市街地の景観の創生」 <p>景観計画区域（市全体）におけるゾーン設定</p> <p>山並み緑地ゾーン：青葉山、大年寺山、太白山、蕃山、権現森等市街地からのランドマークとなる緑の景観を保全する。</p> <p>行楽地ゾーン：仙台を代表する仙台城跡から、水平線や丘陵地の稜線への眺望を保全する。</p> <p>景観重点区域（旧城下）におけるゾーン設定</p> <p>広瀬川周辺ゾーン：広瀬川の自然環境を保全し、仙台城跡や大橋等からの眺望にも配慮し、変化に富み河岸の自然景観と調和する市街地の景観形成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●仙台城跡や広瀬川河畔等からの奥行き感ある眺望景観の保全と調

	<p>和を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●河岸段丘・自然崖等の地形になじませ、河川流域の自然環境の保全と調和を図る。 ●歴史的な趣のある街並みとの調和を図る。 <p>青葉山・大年寺山ゾーン：市街地から眺望できる丘陵景観を確保し、稜線と調和する市街地の景観形成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市街地から見通せる緑の眺望景観の保全と調和を図る。 ●丘陵地の地形を活かした市街地景観の形成を図る。 <p>●丘陵地の自然環境との調和を図る。</p>
<p>仙台市都市計画マスタープラン - 都市計画に関する基本的な方針 - (平成 24 年 3 月)</p>	<p>「青葉山周辺地区（国際学術文化交流拠点）」の基本的な方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○（仮称）国際センター駅周辺地区において、歴史や文化、自然環境などを生かしながら、コンベンション機能などの強化や、広域的な交流機能の集積を推進します。 ○藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことができる、青葉山公園の整備を推進します。 ○仙台城跡について、市民や観光客が共に親しみ学ぶことができるよう、仙台城跡整備基本計画にもとづく整備を推進します。
<p>東西線沿線まちづくりの基本方針（平成 25 年 7 月）</p>	<p>（仮称）国際センター駅周辺のまちづくりの目標</p> <p>多様な魅力から新たな交流が生まれる、国際的な学術文化交流拠点の形成</p> <p>駅周辺には、藩政時代からの仙台の歴史を象徴する仙台城跡や青葉山、広瀬川などの豊かな自然、博物館や美術館など様々な文化施設、「学都」仙台を支える重要な知的資源である東北大学川内キャンパスなどが立地しています。博物館のリニューアルや、仙台城跡整備、「杜の都」のシンボルとなる青葉山公園整備、コンベンション施設整備、仙台商業高校跡地等の利活用により、このような仙台を代表する多様な魅力をさらに磨くとともに、駅を中心につなぐことによって、国内外から多くの人が集まり、新たな交流が生まれる、学術文化交流拠点の形成を目指します。</p> <p>「駅周辺の多様な歴史・文化・自然資源の保全、整備と活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○仙台の礎である仙台城跡を含む青葉山と広瀬川の清流に囲まれた青葉山地区において、仙台城跡を保全・整備するとともに、藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる「杜の都」のシンボルとなる青葉山公園の整備を進めます。 ○仙台城跡において、史跡としての価値を保全するとともに、市民の憩いの場となり、また市内外から多くの人を訪れ、その魅力が感じられるような整備を行います。

<p>青葉山公園整備基本計画（平成24年3月）</p>	<p>[基本目標] 仙台の誇りを育み心に染み入る歴史と自然の景域づくり（※景域：景観領域）</p> <p>[基本方針]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 広域的な視点による計画 2) 百年の杜づくりのシンボルとなる歴史的資源・自然資源の保全と活用 3) 地域資源を活かした市民活力の場の創出 4) 杜の都仙台を代表する品格ある公園づくり <p>青葉山公園は青葉山の自然と史跡仙台城跡を基盤とする公園である。藩政時代からの優れた自然を保護育成しながら、仙台城の歴史的研究や復元を進めるアクティブに変化する公園であり、その成果が楽しめる公園として位置付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5) 地域の特色ある景域と景観軸の活用 <p>広瀬川両岸の河岸段丘に形成された都市の骨格が表すランドスケープを最大限に活かし、公園造成によりそれが隠蔽されないデザインとする。また経ヶ峯や大手門への軸など築城時の歴史的景観軸を大切にし、藩政期から受け継がれる空間構成を活かした計画とする。</p> <p>[空間構成計画]</p> <p>国史跡指定地区を「歴史・文化ゾーン」、追廻地区を「いこい・にぎわいゾーン」「自然散策ゾーン」、国際センター地区を「交流ゾーン」と区分。</p> <p>「歴史・文化ゾーン」</p> <p>平成17年3月策定の「仙台城跡整備基本計画」の整備方針を基本とし、青葉山全体の象徴といえる仙台城本丸跡の遺構等を保全するとともに、水堀の再生、土塁の顕在化等により歴史的な景観を充実させ、展望や散策により来訪者に歴史と文化を堪能してもらう空間とする。</p>
-----------------------------	--

第5章 基本計画

5-1. 空間構成計画

計画区域は、国史跡指定地区・追廻地区・国際センター地区の3つに区分する。

1) 国史跡指定地区

仙台城本丸跡や五色沼・長沼等を含む、平成15年に国史跡指定を受けた区域であり、「歴史・文化ゾーン」と位置づける。

【歴史・文化ゾーン】

平成17年3月策定の「仙台城跡整備基本計画」の整備方針を基本とし、青葉山全体の象徴といえる仙台城本丸跡の遺構等を保全するとともに、水堀の再生、土塁の顕在化等により歴史的な景観を充実させ、展望や散策により来訪者に歴史と文化を堪能してもらう空間とする。

2) 追廻地区

現追廻住宅から竜ノ口河口まで及ぶ、東側に広瀬川が面する区域であり、「いこい・にぎわいゾーン」及び「自然散策ゾーン」と位置づける。

【いこい・にぎわいゾーン】

(仮称)公園センターを起点に、広瀬川や本丸跡の眺望等、広がりや奥行きを持った空間を展開し、活動の場としても機能する空間とする。

【自然散策ゾーン】

広瀬川や竜ノ口等、豊かな自然が残る貴重な周辺環境を生かした、自然散策を行える空間とする。

3) 国際センター地区

仙台国際センターや宮城県スポーツセンター跡地を含む区域であり、「交流ゾーン」と位置づける。

【交流ゾーン】

(仮称)国際センター駅からの公園の玄関口として良好な景観を生かしながら、市内外の来訪者の交流の場としての機能を持つ空間とする。

